

提出日 平成 25年 3月 29日

平成 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 (該当に○)

海外共同・共同研究・○個人研究・出版助成

研究代表者 (所属・職名・氏名)

共立女子大学文芸学部造形芸術コース 教授 水谷 靖

研究課題名

能面『小面』のルーツを探る

研究分担者 (共同研究者)

なし

研究期間

平成24年度

研究を実施することになった経緯 (海外共同の場合のみ記入)

研究組織 [氏名, 所属, 役割分担]

水谷 靖

共立女子大学文芸学部造形芸術コース

研究発表 (印刷中も含む) 雑誌及び図書

「小面」の写真集の作成

## 研究実績の概要

「小面」のルーツを探る

- 1、北九州地方 大陸からの伝来状況の確認
- 2、福井地方 面打ちの里と呼ばれる地方
- 3、福島地方 神楽の盛んな所

通常、女面には、原作者の名前を付けるものが多い、例えば増阿弥の創作した「増女」、孫次郎の創作である「孫次郎」、般若坊の「般若」と云う様に。しかし「小面」は、可愛い面を総称して体系づけられた名前が付いている。つまり能楽以前の田楽・猿楽より前の造形であることが認められる。神楽では「女面」・狂言では「乙」として現在まで受け継がれている。元々男が演ずるしきたりから女面の必要性が生じ、また種類も多い。能面「小面」狂言面「乙」はそれぞれプロの面打ち師の手によるものがほとんどだが、神楽面に関してはその地域内での制作で、素人性の高い造形である。

本研究は、特に上記の三つの地域を探ることにより、「小面」のルーツを探求してみた。

### 1、北九州地方

大陸からの影響を探るべく現地取材を試みる。というのも、現代開催される新作の能面展に多くの素晴らしい作品を出している事から、それらにも興味を持っていたがそちらの収穫の方が大きかった。佐賀県名護屋城跡地は豊臣秀吉の朝鮮出兵のため有力大名が集結させられた壮大なイベント場である。朝鮮半島にすべての大名が出兵するわけでもない。その間、意気を高揚するために行なったのが能楽である。しかし終結後、能楽の道具は、近隣の寺社に奉納されたため、北九州には有力大名の持ち寄った優れた能面が数多く残ったのではないかと推察される。

### 2、福井地方

越前大野が面打ちの里と呼ばれる。出目家が代表で、一向宗の門徒達を中心となって鎌倉彫刻を学びながら創作したのではないかとと思われる。確かにあの造形は、今でさえ道路灯で明るくなっているが、無ければ空よりも暗い山影は、野獣の鳴き声と共に非常に恐怖心をそそる。その様な環境から創作された造形に思う。しかし、面打ち師として認められると都会に出てしまい、能面は残って居らずあるのは生家のみである。ただ今立郡池田町には、能楽の元となる「水海の田楽能」なるものが残っており、いまだに2月14日に町の祭りとして開催されている。

### 3、福島地方

東北地方では地元民による神楽が盛んで現在でも行事として行われている。東北大震災による津波によりその殆んどが流されてしまった雄勝町では、自分たちの復興の意気を昂めるべく、いち早く神楽を再現したいと願い復興された。あの様な状況下で文化事業は二の次と置いていたが、これから生きて行こうとする究極の中で最前線に持ってこられたことは、文芸を教える者にとって、これほど有意義な事はない。

「小面」のルーツは能楽が観阿弥・世阿弥父子以前に存在し田楽・猿楽で使用されていた。陰陽や「照らす・曇らす」の表現は既に確立されており、造形的には鎌倉彫刻が基になっていることが見えてきた。「写し」の精神は仏像を彫ることと同じで、ひとつの様式の上に更に自己表現を加えようとする意図が仏師或いは面写ち師を育てた背景がある。